

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	世田谷区立東深沢小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	3	3	2	0	16	
児童数	83	89	78	82	94	62	0	488	21

・研究の概要

1．研究主題（テーマ）

わかる・できる・いかす
教科担任制，少人数指導，保護者との連携を通して

2．研究内容と方法

(1)実施学年・教科

学力ピラミッド

自ら学び
考える力の育成
・知識理解の活用
・問題課題解決への挑戦

基礎的基本的内容の習得
・知識，技能
・学び方，学ぶ力
(意欲，思考力，判断力，表現力等)

基本的な生活能力の育成
・基本的な生活習慣，態度
・教科の土台となる力（聞く，話す等）

本校では「人間が生きるために必要な身に付けるべき力を総合したもの」を「学力」としてとらえ，学力のモデル図として，上図のような三層からなる「学力ピラミッド」を考えた。全ての教育活動を通して，児童一人一人の学力ピラミッドを大きくしっかりしたものにしていくことが大切であると考えている。本校の研究では，児童の発達段階を踏まえ，上図の内容のうち，低学年では下に，高学年では上にウエイトを置いて指導法や指導体制を工夫することとした。また，それぞれの層のつながる部分，つまり基本的な生活能力が，いかに基礎的基本的内容の習得につながるか，また，基礎的基本的内容の習得が，いかに自ら学び考える力の育成につながるかも含めて研究を進めた。

【教科担任制】第5学年，第6学年

平成14年度は，音楽，図工専科が第3学年以上の，算数専科が第5，6学年の授業を担当していたが，平成15年度は算数専科に変えて，理科専科が第5，6学年の授業を担当した。また，第6学年では，社会，体育科で担任の授業交換による教科担任制を実施した。

【少人数指導】第3学年～第6学年・算数

第3学年は，講師と共に2学級を4つの学習集団に分割し実施し，第4，5学年は，3学級を4つの学習集団に分割し実施した。また，2学期より習熟度別学習を導入した。第6学年は，年度当初より2学級を3つの学習集団に分割し，習熟度別学習で実施し，単元ごとに自己評価やプレテストを行い，児童が学習集団の選択をして進めた。

【基本的な生活能力の育成】第1学年，第2学年

基本的な生活習慣の中でも，特に学習習慣の定着は，学習意欲に密接に関連し教科の学力の向上につながると考える。いくつかの項目を取り上げてカードにし，日常的に自己評価させ，定着を図った。また，家庭との連携を密にし，学校教育への関心を高めようと同時に，児童に対して規則正しい家庭生活の啓発を図った。

(2) 年次ごとの計画

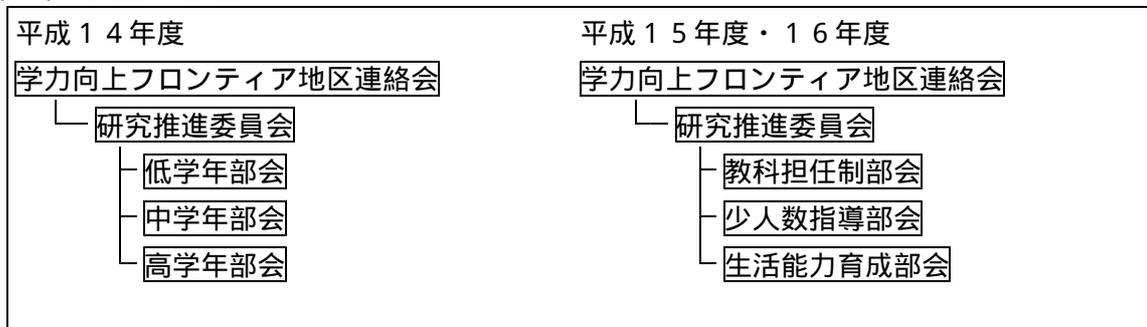
平成14年度	<p>テーマ 学力向上のための指導法・指導体制の工夫 仮説 それぞれの学年において，適切な指導法・指導体制の工夫をすれば，学力の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">・講演会（保護者も含む）・研究授業（3回）・保護者向け報告会 <p>【教科担任制】第5学年，第6学年 音楽，図工専科が第3学年以上の授業を担当していたが，新たに第5，6学年の算数専科が加わり，また，社会，家庭科で授業交換による教科担任制を実施した。学級担任が一部TTで入ることで，図工や音楽とは違う指導体制が充実した。</p> <p>【習熟度別学習】第3学年，第4学年 中学年の算数指導は，1クラスを2人の教師で教える体制をとった。TTで指導する時間，クラスの人数を半分に分割してそれぞれ別の教室で指導する時間等，単元に応じて指導体制を工夫した。また，習熟度別にクラスを分割して2単元を実施した。</p> <p>【基本的な生活能力の育成】第1学年，第2学年 11月の研究授業では，生活科“人との関わり合いを大切に”の単元を通じて，聞こうとする姿勢を育んだ。聞こうとする姿勢は，意欲に通じるものでもあり，教科の学力の向上につながると考える。</p>
--------	--

平成 14 年度	<p>基本的な生活習慣と学力の関係について、実態を調べながら明らかになるよう検討を加えた。また、「教科の土台ともなるべき力」については、授業の工夫や改善、日常生活を通して研究を進めた。</p> <p>【保護者の理解】</p> <p>「学力について」の講演会や、研究授業の参観及び研究協議会への保護者参加により、研究への理解を図れた。また、総合的な学習の課外活動や英語活動におけるヘルプマザーの支援等、保護者の教育活動への参画が日常化してきている。</p> <p>また、学校HPに研究内容を公開し、研究の推進状況がわかるようにすることにより、保護者に興味をもってもらえるようになった。</p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ わかる・できる・いかす 教科担任制，少人数指導，保護者との連携を通して 仮説 家庭との連携を大切にし，学力の基盤となる基本的な生活能力を育て，少人数指導や教科担任制を通して個々の学習意欲，進度に応じた授業を行う。その積み重ねの中でより一層児童の学習意欲は高まり，学習内容が定着すると同時に，自ら考え実践する力が伸びるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（5回）・実践を通して検証。 ・中間発表会を2月に実施。 <p>【教科担任制】</p> <p>算数専科に変えて，理科専科が第5，6学年の授業を担当した。また，第6学年では，社会，体育科で担任の授業交換による教科担任制を実施した。</p> <p>【少人数指導】</p> <p>第3学年から第6学年まで学級数+1の学習集団で少人数指導を実施した（第3学年は講師を含め+2の学習集団）。第3～第5学年は第2学期より，第6学年は学年当初より習熟度別学習を導入した。單元ごとに自己評価やプレテストを行い，児童が学習集団の選択をして少人数指導を進めた。</p> <p>【基本的な生活能力の育成】</p> <p>基本的な生活習慣の中でも，特に学習習慣の定着は，学習意欲に密接に関連し教科の学力の向上につながると考える。いくつかの項目を取り上げてカードにし，日常的に自己評価させ，定着を図った。また，学校教育への関心を高めてもらうと同時に，規則正しい家庭生活を送れるよう，家庭との連携を十分に図った。</p> <p>【保護者との連携】</p> <p>PTAの研修会「基本的な生活能力の向上が学力向上につながる」を共催し，家庭での学校教育への関心の高まりや規則正しい生活等が学力の向上につながることを理解を深めた。また，総合的な学習の課外活動や英語活動におけるヘルプマザーの支援等，保護者の教育活動への参画がより一層日常化し，充実してきている。</p>
----------------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>わかる・できる・いかす</p> <p>仮説</p> <p>学力の向上によって身に付けた力をいろいろな場面でいかすことができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>【教科担任制】第5，6学年において，1教科1教員で完全実施する。</p> <p>【少人数指導】学習内容に応じた指導パターン・形態を工夫する。</p> <p>【基本的な生活能力の育成】保護者との連携を充実させ，基本的な生活能力の基盤となる生活習慣の定着を図る。</p> <p>・研究発表会を11月に実施する。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

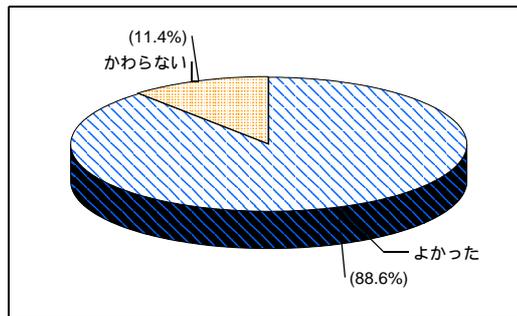
<p>【教科担任制】</p> <p>児童の立場から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな先生に教えてもらう楽しさがあり，学習に対する緊張感や新鮮さをもつことができた。 ・授業内容が充実した。 <p>教師の立場から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年内での児童理解の共通化が図れた。 ・他のクラスの児童とかかわりを深めることができた。 ・時数の確保が優先され，指導計画を比較的予定通り進めやすいことがわかった。 <p>【少人数指導】</p> <p>児童の立場から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習ができた。 ・発表の機会が増えて学習に参加している意識が高まった。 ・学習内容がよく理解できるようになり，算数が得意と感じる児童が増えた。
--

教師の立場から

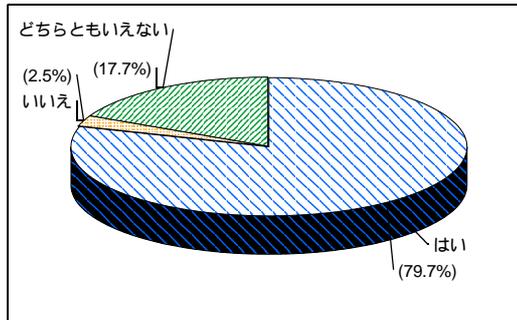
- ・ 児童一人一人に対して，声かけや個別指導の機会が増えた。
- ・ 個別指導の機会が増え，個々の能力やつまづきを細かく把握して指導の手立てや支援の方法をしぼる等指導がしやすくなった。

<習熟度別学習実施後の児童へのアンケートより> 第4学年児童79名対象

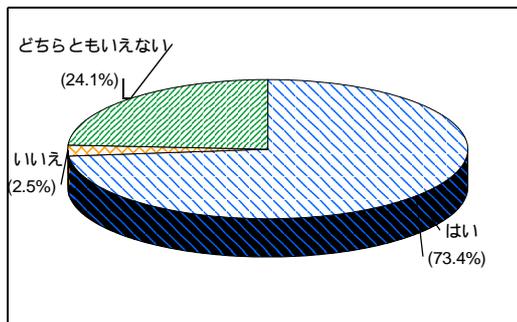
- ・ 自分が選んだコースで学習してどうでしたか



- ・ 算数が以前より得意になりましたか



- ・ 算数が以前より好きになりましたか



【基本的な生活能力の育成】

児童の立場から

- ・ 授業の準備をして待つ，忘れ物が減る，机上の片づけをする，チャイムの合図を守る等学習への態度がよくなってきた。
- ・ 話を真剣に聞くようになり，何をするのか分かって行動できるようになった。
- ・ 保護者の協力のもと基本的な生活習慣が身に付いてきた。

教師の立場から

- ・ 一週間カードを使うことにより，指導に一貫性がもてるようになった。

2. 今後の課題

<p>学力向上のための工夫されたカリキュラムの編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に応じた指導パターン・形態の工夫。 ・個々の能力をいかす学習内容や方法を工夫した指導計画の作成と実施。 <p>学力向上のための評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任間の情報交換の場と時間の確保。 ・通知表の工夫と個別評価カードの活用。 <p>保護者との連携の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活能力の基盤となる生活習慣の定着。 ・教育ボランティアの活用。

・学力等把握のための学校の取組

<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学力調査の実施 ・定期的なアンケート調査の実施（児童・保護者）

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年2月6日 中間研究発表会 ・平成16年11月 研究発表会 ・研究リーフレットの作成 ・HPによる研究内容の公開(http://www.setagaya.ed.jp/hisa/index.htm)



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	<input type="checkbox"/> 15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 6学級以下	<input type="checkbox"/> 7～12学級
	<input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級	<input type="checkbox"/> 19～24学級
	<input type="checkbox"/> 25学級以上	
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	<input type="checkbox"/> T.Tによる指導
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制	<input type="checkbox"/> その他
【研究教科】	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input checked="" type="checkbox"/> 社会	<input checked="" type="checkbox"/> 算数 <input checked="" type="checkbox"/> 理科
	<input checked="" type="checkbox"/> 生活 <input checked="" type="checkbox"/> 音楽	<input checked="" type="checkbox"/> 図画工作 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭
	<input checked="" type="checkbox"/> 体育 その他	
【指導法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無